

リオ五輪国際映像中継に携わって

制作撮影グループ

粟生修市

今回8月2日から8月24日の日程で、ブラジルのリオデジャネイロで開催されたオリンピックの国際映像配信業務に携わってきました。

ブラジルに行く前から日本では現地の治安情報や、会場が未完成など色々と不安な情報がありましたが、現地ではそんな日本での不安をよそに窃盗・置き引き・恐喝などの被害にあうこともなく至って平和に過ごすことが出来ました。

一番辛かったのは移動で、大阪～ドバイ10時間、ドバイ～リオ14時間という飛行機内での時間でした。やはり日本の真裏は遠かったです。

私は柔道とレスリングの2競技の中継業務に当たらせていただきましたが、2競技共にメダルラッシュで、その時その時を現場で体感し、撮影出来たことはとても良い経験になりましたし、本当に忘れられない業務になりました。



普段何気なく聞いている国歌も、オリンピックの会場で聞くと鳥肌ものでした。

私が担当していたリバースのカメラはハイモーションカメラで、普段使っているカメラと微妙な違い



こそありましたがほぼ普段通りの使いかたで操作することが出来ました。

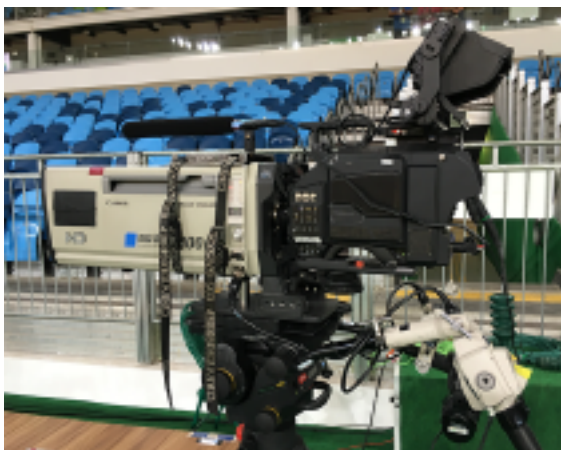
リバースのポジションを担当していたため、いつも見切れていて皆さんからの反響が凄かったです。

機材などはヨーロッパの会社の機材を使用しましたが、全体的に古い機材が多い印象でした。カメラケーブルの端子はレモで

したが、中継中にケーブルの接点不良が度々起きて、映像が落ちるという日本では考えられないことも結構ありました。

オーテックの業務でも希にありますが、外国の方々とは意志疎通を計りながら機材のメンテナンスやオペレーションを行うのは通訳さんが居ても一苦勞です。

自分が英語を喋ればもう少し楽に業務を遂行出来るのにと、いつもながら痛感させられました。



23日間という長期間でしたが、終わってみればあっという間の23日間で自分の

人生の中でもとても内容の濃い、充実した23日間でした。オリンピックの中継業務に携われたこと、メダルラッシュの大会に立ち会えたこと、これらの経験を生かし今後の業務も頑張っていけたらと思います。

